

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	道徳教育推進事業		
事業担当	学校教育部 教育指導課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	人間力 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'01	1 いのちを大切にすることをもち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	教員、幼児・児童・生徒	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
教員の道徳授業に関する力量を高めることにより、児童、生徒の道徳的実践力の向上が図られています。		児童、生徒の道徳的実践力を育成するため、教員を対象とした公開授業及び授業研究会を実施するとともに、体験活動を生かした児童、生徒の心に響く道徳教育を充実します。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	道徳授業研究会等の実施			単位	回
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	2	2	2	3	
	実績	2	2	2		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	道徳授業研究会参加者からの評価			単位	点
	説明・算定式	道徳授業研究会参加者によるアンケート(4段階)の平均値				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	3.4	3.6	3.6	3.6	
	実績	3.6	3.8	3.8		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況		：予定どおり				
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
児童・生徒の道徳的実践力を育成するため、公開授業を通じた授業研究会を小・中学校において実施しました。公開授業及び授業研究会の成果を各学校で生かし、道徳の授業を要とし、学校の教育活動全体を通じて体験活動も大切にしながら、児童・生徒の心に響く道徳教育の充実を図ることができました。						
平成26年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	児童・生徒の心に響く道徳教育の充実が図れるよう、公開授業を通じた授業研究会を計画的に行うことが必要です。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	公開授業を通じた授業研究会を小・中学校で実施することにより、道徳教育の充実が図られています。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	公開授業を通じた授業研究会を行うことにより、教員の授業力の向上とともに、児童・生徒の道徳的実践力の育成が図られています。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	小・中学校の連携を踏まえた事業を検討するとともに、義務教育9年間を通じた道徳教育の研究を進めています。	高中低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 学習指導要領では、道徳教育は道徳の時間を要とし、学校の教育活動全体を通じて行うものであると示されています。今後も、小学校・中学校で実施している研究会を通じて、各学校で、発達の段階に応じた指導内容の重点化や、小・中学校の連携が深められるよう、事業内容を検討することが必要と考えます。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		道徳授業研究会等の実施	道徳授業研究会等の実施	道徳授業研究会等の実施	道徳授業研究会等の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		-	-	-	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成28年度の取組方針</b> 小・中学校の連携を図るため、それぞれの研究会に校種を越えて積極的に参加できるように働きかけます。
<b>課長コメント</b> 今後、さらに道徳の時間を要とした道徳教育の推進を図るため、公開授業を通じた授業研究会等を小・中学校において継続して実施していきたいと考えています。また、小・中学校の連携が図れるよう、それぞれの研究会では、異校種の教員の参加体制を保っていきます。